

□随想□

神戸時代

邦光史郎

ぼくは父親が新聞記者だったので、その転勤につれて、各地を転々とした。

生れたのは東京だが、その翌年には大阪、また東京、そして、こんどは神戸へやってきた。

小学校三年生の時であった。いまから約三十年ばかりむかしのことである。当時、東京の小学生はサージの制服に、坊ちゃん刈り、靴は止め金のついた皮靴をはいていた。

ところが、神戸の小学校、正確に言えば摩耶小学校へ父につれられて行ってみると、坊ちゃん刈の生徒など一人もいなかった。服は小倉服、靴は編上靴かゴム靴だったと記憶している。

どうしたものか、摩耶小学校は正門から石段を上るのではなくおりた所に玄関があった。

左手に二宮尊徳の銅像がたっていた。雨の日で

あったので、尊徳像の背負っている薪もしめって重そうであった。ぼくは、父親と共に、校長室へつれていかれたが、すこしも心は弾まなかった。よそ見ばかりしているといって父に叱られた。そのせいか、校長先生の顔は、すこしも憶えていない。担任の先生は射場という人であった。温厚で村夫子然とした人だった。

この学校で印象に残っているのは、月に一度、全校生徒が、そろって摩耶山へ登る慣例になっていたことだった。

摩耶山といえは、ぼくにとっては、あまりにもなつかしい。当時の小学生は勉強などあまりしなかったから、ほとんど毎日、ぼくは摩耶山のふもとで遊び暮した。競馬倶楽部の塀の下に蟻地獄をみつけ、そのすり鉢の底に、蟻を投げ込んで、

蟻地獄の主の出現を楽しんだ。こまかい砂粒がむくむくともち上って、大きなはさがみ砂底から現れる瞬間に、ぞくりとする戦慄を覚えたものののだ。

林の中の谷川でもよく遊んだ。ケープル発着場近くにあった池はほくにとつて一つの神秘なる場所であつたといえよう。めつたに人の訪れない山中の池には、菱の葉がしげり、そのみどりの水面には魔性がやどっているように思えた。

東京の家にはカンヌキでしめる門があつたが、神戸の家には、門はあつても、出入りのノツプのついたドア式のくぐり戸であつた。家の前に、まるで谷川のように流れのはげしい溝があつて、小さな石橋が架つていた。

二、三軒はなれたところに、外人の家があつて、なんという花か知らぬが毒々しいほど朱い熱帯樹の花が咲いていた。外人といえ、すこし山手に外人学校があつたことを覚えていた。

いつの秋であつたか、関西学院跡の運動場にサーカスのテントが張られた。そこはスリ鉢状のスタンドになつていて、それを通り抜ける時、ほくには、その競技場が、古代ローマの円型劇場の遺跡のように思えてならなかつた。

当時、阪急電車の終点は、上筒井であつた。

いまでもよく覚えてゐるのは、父や母につられて新開地の歓楽街を通り抜けた日の印象である。その時、ほくは、小学校三年生であつたから大人の胸ぐらいしか身長がなかつた。そのため、大人には見えないものが、つい眼前に迫つてきたのである。それは、漢方薬店の店頭に飾られてい

た猿のしゃれ、うべであつた。むなしく眼窩をみひらいたその怨めし気な頭骨が、ガラス瓶の中から、ほくをみつめていたのだ。

その時の恐怖は、ながく残つた。けれど父母は、その時ほくの対面した恐怖には全く気づいていなかった。大人には見えないものが子供の心に迫り、そして、その恐怖や怒りの感情は、深い心の亀裂となつて、後年にまで残るものなのである。

二階の窓から眺めると、眉に迫るほどたく青い摩耶山がそびえ、そして、夏には泳ぐことのできた灘の海をあかく染めて夕陽が落ちていった神戸を、いまでもほくは忘れることができない。

まだ若かつた母に手をひかれて、波止場をたずねた日、長く尾を曳いて鳴った汽笛のひびきを、いまでもありありと覚えてゐるのだ。

だが、そのころは池であつたあたりがいまは埋立てられて、そこに福住小学校が建っているなどと聞くと、そのあたりを、ふたたび訪ねたい気持ちと共に、自分の心の中に住んでいる三十年前の神戸の町をこわしたくないために、訪ねることをためらう気持ちがつい向きかけた足を引き留めてしまふのである。

□随
想□

風の 音にぞ

白 川 渥
え・中 西 勝

私の郷里では「眼が覚める」ことを「おどろく」と言う。「今朝オドロイたらまだ五時だった」などと、年のかげんか、この頃ついお国言葉がとび出すので、関東生れの女房は噴き出してしまふ何とも下卑た泥臭い方言にひびくらしいのであるが、方言と言うものは、しばしば雅びたヤマト言葉の名残りであるように、「おどろく」も本来は「眼が覚める」の義なのである。転じて、ハッと己れに気がつくこと、むつかしく言えば、人間がその日常性から実存の己れに真向うことである。



仏教で言う「覚」の思想も、ヤマト言葉にホンヤクすれば、さしずめ「オドロキ」と言うことになろうか。

秋きぬと眼にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる（古今集）

むろん、このオドロキもハッと気のついたと言うほどの意味で、今日風の「ビツクリ」ではない私は、この敏行朝臣の歌が好きだ。夏の終りに

近ずいてツクツクボウシが鳴き出すと、ふっと口に出る。一見、道理に落ちた歌柄のようだが、詠みぶりが素直なせいとか、しみじみとした調べがある。炎熱を耐えて来た者に存命の悦びをさえ感じさせるものがある。

×

ところで、この秋、古い文学仲間の高見順君がガンで他界した。その報らせの電話を新聞社から受けた時、私のオドロキは正に「眼覚める」思いであつた。高見君とは格別親しく付き合っていたわけではない。が、青年時代に同じ同人雑誌をはじめから、もう三十年以上になる。その「日曆」と言う薄っぺらな雑誌が、ほそぼそながら今もつづいてゐる。彼は、その中心的な士だつた。そしてたまたま私と同年だつた。東京と神戸とはなればなれの三十年だつたが、会えば「ヤア」の一言だけで事足りた。

あれは、もう三年も前だつたか。某社の講演旅行で久しぶりに道後の宿で一緒になつた。その夜夕食を共にしたのが最後の出会いとなつてしまつた。昔々学生時代、本郷の赤門前のペーカリーではじめて出会つた時も、その長身に時代のユーウツを背負っているかのような印象で、

病めるには非ざるぞ君現代の無限の悩み
われは知るなり

ひそかにそんな戯れ歌を彼の風貌姿勢に当てはめていたのだが、五十代の半ばを過ぎたその時も左翼文学青年当時のポーズとさして変りはなく、少しも衰えを見せぬその反俗精神に一驚したもの

だ。

今朝の新聞では、彼の業績に対して文化功労賞が贈られると言う。果してそのクンシヨウ、あの反俗の胸に似合うか、どうか。

×

辞書によると、「おどろく」の語源は「大蕩く」とある。蕩は水の揺れ動く様であろう。揺れた水は、必ず静まる。ビツクリした精神は、やがて静寂に帰る。驚きが大きければ大きいほど、その静寂は深い。そしてその静寂の中で、人は実存の己れに真向うのだ。つまり、日常的な己れから眼を覚ますのだ。高見君の死は、われわれ同人仲間の誰にとつても、大きなオドロキだつただろう。が、私の場合、たまたま同年だつたことも手伝つて、何やら打ち覚める心地なのである。

秋きぬと眼にはさやかに見えねども——

この古今の歌は、私にとって一語一語象徴的である。この秋は、一きわ心に泌みるものがある。そう言えば「おどろかれぬる」も、その「れ」は自発の意。単にオドロイたのではない。文法的な正解は「おどろかずにはいられない」と言うほどの意味だが、高見順氏の死は、私を打睡の状からオドロカした秋風であつた。

△ 作家 V

たか 石鯛 ガルボ

片岡 眞 太 郎

〈絵も〉



私の心弾む幻の天使たち

×

「タカは驚のように狂暴な野性だ」「インダイ
 ッてやはり赤くて、顔のいかつい大物」「グレタ
 ・ガルボノ それ人の名？ 映画でそんな新人あ
 まり聞かないわね」

×

こんな具合になると、私はもう何となしに沈黙
 してしまっている自分に気付いている。

昨冬、庭先で愛育してきた鷹が逝き、桜の木蔭
 の鳥小屋には、似ても似つかぬカラスが跡目よろ
 しく入り、その下を、ドー・ペルマンにかわる雑
 種犬ソロリとチロリンのちよろちよると往ききし
 ているのが、ふと目に止ると果てしなくため息が
 出てくるのである。

九州の英彦山から宝塚の庭先へ来て、よくなつ
 いていた。何かと不自由だった私は、彼のための
 一匹の魚が、何時のまにか、わが家の夕餉の膳に
 なっているたびに、自若として大空の彼方を見詰
 める姿がいとしくて心中で詫びた。だから、日中
 何度も、満腹するまで大口をあけて呼ぶ無礼のカ
 ラスは論外に、何時しかわが志の衰える日、駒鳥や
 うぐいすの世話をみるだらう歳まで、ただ幻を追
 うしかないのだと想いが巡るばかりなのである。

彼との会話から生れる私の鷹の作品は、余り売
 れたことがない。それは翼を上げ襲いかからんば
 かりの勇姿でなく、勇者の内側にある弧高で屹立
 する風雪を淋しいばかりに描いてしまうからだ
 と友人がいう。八代将軍吉宗が再興した鷹狩の最盛
 期は、江戸の近郊隅田川、江戸川沿岸に將軍家専

用の鷹場は五十四カ所をかぞえ、毎年松前、津軽、南部など東北の藩から献上させた。その値タカ一羽反物二十反と云われ、「鷹はうえても穂をつまず」の諺を残し、我等の視野から静かに消えつつある。

神戸港から高知航路で直行する私の行きつけの荒磯、甲の浦の「赤塔バエ」がTVに映ったとき、磯の周辺に押し寄せる高波や、物干竿ぐらゐの剛竿を、オーバー・ヘッド・キャスティングする豪壮な石鯛釣の重量感に家族が一驚して、最高の男性的スポーツの一つで……と浮わづったアナウンサーの解説をよそに、もうこんな危険なこととはせんでくれといった。もっとも私は何十貫目もの餌（ウニ）を投入してきたが、昨秋から形をみない。底物釣師達に絶対浮気させない魅力をもつ幻の魚石鯛は、銀白色の体側にナス紺色の美しい七本の縦縞があり、水平に出るとうす紫のいぶし銀、その風貌野武士の面魂に見える。普通4キロで体重の5倍の剛力無双の磯の王者。一日中海をにらんで座し、忍耐力の限界を試されて帰るばかりだから、いと簡単に、アレだろうと知ったかぶりされるともう私は返事も、説明の気も失せるのである。

もともと釣は偶然だった。夜更しの多い私に、最初家内が健康的な魚釣を奨めた時は、あんなことをすると思うのかと一喝した記憶が蘇る。家内が勝手に作る作品を展覧会に持ちこんだことからこの業に埋没し、やがて貧しく、その上釣狂になっても、私には責任のないように、時々ぼやきわが寝室の天井に貼られた魚拓、記録物の尺三寸のへら鮎に、君の釣技のせいではないよと慰められる。海は、しかし今「海峡」連作の母胎となり、

以後、朝日ジャーナル連載小説邪宗門の取材で高橋和己と厳寒の下北半島に難行の旅したとき、この荒寥の地の果で、幻の海峡の真打に会い制作の強い裏打を得た。幻の魚の正しい賜物なのだ。

「グレタ・ガルボの美しさ」などと私は安易には触れまい。私は年令的にも充分受取れる背景ではなかったから、映画館の片隅で独り見入った無差別のシーンから「神聖ガルボ帝国」の何んたるかもしらずに、一種の畏敬の憧れを抱き、すぐ忘れた。戦後モンローやリズ・テイラーが騒がれた時、私は妙にひっかかっていて、その因が、ガルボとマーナ、ロイの幻にあったことに気付くのはずつとのちであつた。神秘的な美貌と悲劇的なロマンスの香り、パーティざらい、ベレーの地味な姿での僅かの外出などの伝説的女優より、Stockholm の departgirl グレタ・グスタフソンでよい。求人作用には、透明の波動がきちんと伝わって来るようなあれだ。私はカンジンスキーやフォートリエに通じた風の女性には好めない。先日A女が、男優では、矢張りボワイエとボガードだと、例の目の美しさや男の深いしわの意味に触れるので、ビル党が久しぶりにブランディを手にした折のように心が動き、早速とガルボとロイを持ち出したのであつた。九月、折しも、ニコチカ、クリスチナ女王など5本が再映されると聞く。映画界に未だ良識が残っていたのか。この不毛の現代に、幻の天使が静かに舞い降りてくる。

「黄金の花咲くケメトの地」——を耳にしたミタニンの王は、アメンホテプ三世に申入れた。

「貴王の地に塵芥の様に多い金を送れ」

北欧の銘菓

ユーハイム コンフェクト



バウムクーヘン
〈ピラミッドケーキ〉
クッキー
ムンデット
シモン
デビルドチーズビスケット
各種高級洋菓子



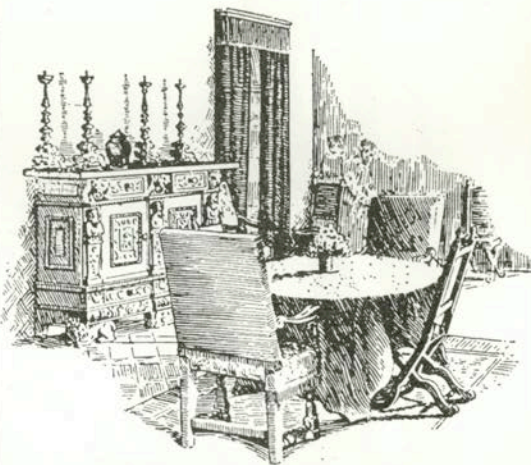
本社・工場 / 神戸市葺合区熊内町I丁目TEL 22-1164・9865

熊内店 (市立美術館隣)

三宮店 / 三宮生田筋(階上喫茶室)TEL 33-7343・0156・4314

神戸 / 大丸店・阪急店・鉄道弘済会・三越店

家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

大丸前 TEL { ㊟ 3 7 3 7
3 7 3 9 }

さんちかタウン レディスコーナー

10月1日オープン



靴と舶来雑貨 **クロス**

神戸 トア・ロード TEL ③③ 0998

代表 ③⑨ 1781

大阪 阪神百貨店 TEL ③⑥① 1201

おんがら屋



きものと細貨

おんがら屋

神戸

西店 / 三宮センター街・電話 33-8836 (代)

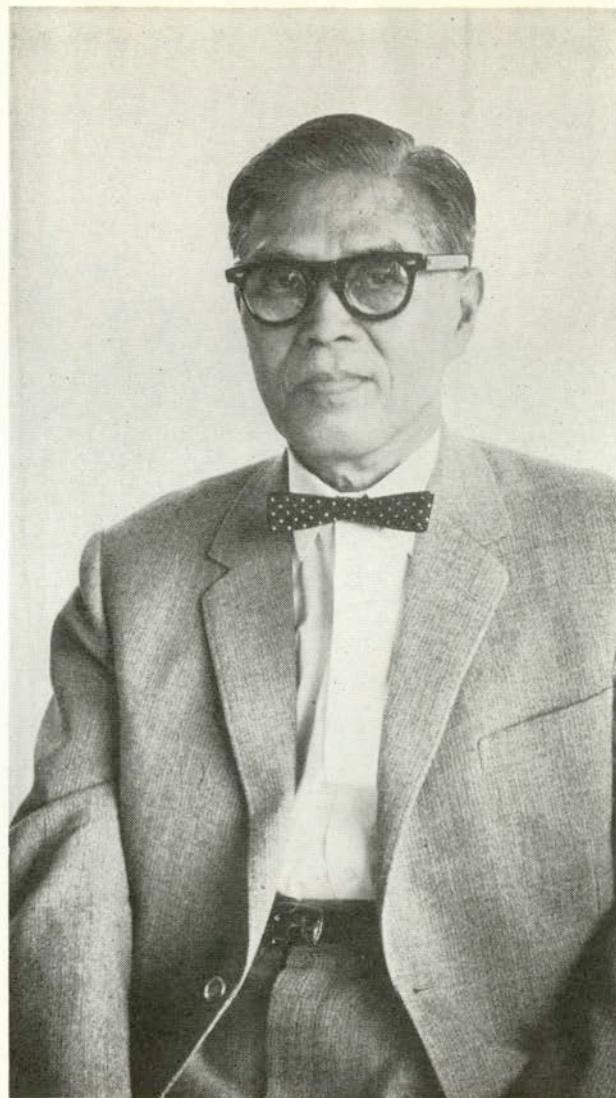
東店 / 三宮センター街・電話 33-0629

三宮店 / 三宮地下街・電話 39-4303

東京

新橋店 / 新橋2丁目・電話 571-0807

銀座店 / 小松ストア・地階・電話 572-5151 (代)



□ 神戸っ子放談 □

青年にほしいひたむきな情熱

森 治 樹 (資生堂社長)

去る8月21日、六甲山ホテルにおいて、神戸青年会議所の夏季セミナーがひらかれた。

今月の神戸っ子放談にご登場をお願いした、資生堂社長の森治樹氏は、その夏季セミナーの講師として「これからの人間と人間関係」というテーマのもとに講演され J C の各メンバーに多大の感銘を与えた。

神戸高商出身の森社長は、講演後の貴重な時間を神戸っ子放談のためにさいてくださり、学生時代の思い出から神戸の進路にたいする忠言などにわたって卒直なご意見を披歴された。

神戸高商時代の思い出
グリーククラブで活躍したこと

——最初に神戸高商在学時代の思い出ということで、お話しただけだと思います。

「そうですね。思い出といっても大した武勇伝があるわけでもないですがねえ。

やはり思い出すことといえば、グリークラブに入って活躍したことですね。グリークラブといっても、今日の大学のクラブのようにスケールの大きなものではなかったけれども、質的には相当高いレベルに達していたんじゃないかと思います。

いつだったか、神戸高商と関西学院、それから神戸女学院の三校のグリークラブで、合同の音楽会を開いたことがあるんですよ。聚楽館でやりましてね。現代では、そんなことはなんでもないことのように思われるでしょうが、当時の試みとしては大変なことだったんです。神戸高商といえば、ずいぶんかたい学校だったし、女学生と一緒に歌をうたうとはなにごとかというわけですね。神戸女学院などはかなり進歩的な女学校でしたが、それでも学校当局としては、なかなか許可を出さない。それで結局は、個人の資格においてやるのならよろしいということになりましたね。もう40年ほど昔のことですが今の世の中からは想像もつかぬくらい厳しかったわけですね。

先年、神戸へ来た時に、友人とタクシーに乗って、ちょうど聚楽館の前を通りかかったことがある。すると、友人が「君は聚楽館を知っているか」というんですね。知っているところじゃないよといって大笑いしたことがあります。

音楽をつうじて

社会を明るく

「そんなわけで、今日に至るまで私は音楽とは縁が切れなかった。はじめは、まあ、ごく趣味的にやっていたわけですが、だんだん深入りしてしまって、ドイツ人教師について本格的に歌の勉強をしたものです。どうも私は、なにごとにせよ、中途半端な、いいかげんのところ

で妥協するということができないタチらしい。徹底的につきつめてやらないと気がすまないというところがあるですね。

もともとは、たんに趣味にすぎなかった音楽が、卒業後40年もやっている間に、今では一つの社会運動にまで広がっているんですよ。つまり、音楽をつうじて社会を明るくしようという運動ですね。

そのためには先ず職場音楽を盛んにして、その質を高めていかなくてはならない。だから、その職場音楽のすぐれた指導者を養成する必要があるわけで、そういう人たちのための学校があるわけですね。私はその講師をしていて、主に発声法を教えています。また、月に一回、日比谷公会堂で「みんなて歌おう音楽会」というのをやっているのですが、よい歌をうたおう、心の明るくなる歌をうたおうというのが、いちばん大きな願いといえるでしょうね。

実さい、歌をうたうというのは大変いいことで、青年にとつて得るところは必ず大きいものがあると思いますね。私自身、ときどきステージにも立ちますし、テレビやラジオなどで歌うこともあるんですよ。若い人々にぜひお勧めしたいことですな。

青年は世界的視野に立つて

ものごとを考えよ

——ご承知のように、神戸は東西に細長く伸びた都市でそういう地形的な面での狭さという制約があります。また、産業の面では造船、海運、酒造、というような産業が神戸を代表しているわけですが、こういった地元産業が最近どうもふるわないという感じがあって、なかには斜陽神戸という声もきかれます。神戸の将来はどうあるべきか、という問題については、各方面から真剣な提案が出されていますが、その一つとして例えば神戸を観光都市に、という意見もあるようです。その点についてはどうお考えでしょう？

「私は、神戸の現状についてそれほど詳しく知って

るわけではないので、もし、まちがいがあれば困るのですが、今のお話から判断しますと、観光都市に、という考えには、あまり賛成したくありませんね。私は、だいたい観光というものにはそれほど重きをおいていない。それに、神戸に日本的、全世界的に通用する観光資源があるわけではないでしょう。六甲山があるではないかと いわれるかもしれませんが、それにしても世界的なスケールという点になると疑問があると思いますね。

だいたい観光などというチツボケな考えは捨てるべきではないですか。もつとスケールの大きな考え方を持ってもらいたいですね。ただ、観光ということではなく、リクリエーションとかレジャー施設を充実させるというのは、市民生活を豊かにするという意味でいいことだと思っています。その点からみれば、神戸の自然の利とか地の利というものは、もつともつと生かせるのではないでしょうか。

それから、もう一つ言いたいことは、神戸の人が、特に青年諸君が、自分を神戸っ子という小さなワクのなかに閉じこめてしまわないようにということですね。むしろ、世界的な視野で全体をよく見渡して、ものごとを考えるというふうであってほしい。私は鳥取県生まれの人間ですが、いわゆる県人会なるものにも入っていない。そういう狭いワクに自分を閉じこめるのはおかしいことですよ。つまり、どんな場合でも大きな立場に立って、考えてほしいということですね。」

文化センターのないのは神戸の後進性のあらわれだ

——よく神戸は文化不毛の地などといわれ、例えば総合的な文化センターもなければ、美術館もありません。そういう文化的な施設の必要性は、あちこちで論じられているのですが、なかなか実現できそうもありませんが……

「それは妙なことです。最近では地方の都市にも、文化の粋といってもいいような立派な文化施設が生まれて

いる時代です。それは当然、そういうものがあって然るべきなんです。そういう文化の中心施設が神戸にないというのはおかしい話です。それはなにも特に神戸だけに限られた問題ではなくて、どこの都市にもなければ困るというものですね。

こういつては失礼に当たるかもしれませんが、どうもそれは神戸の後進性をあらわしているのではないですかね。あるいは田舎性を示す好例といってもいいかもしれませんね。

そこで、それならばどうすればいいかという問題が出てきますが、それはもう青年のすべてが一丸となって、そうした現状を打開していく以外に方法はありませんね。はじめから諦めてはいけません。とにかくひたむきになって、悪い所は是正していかなくてはならないので、そういう一途な情熱を若い人に望みたいですね。明治維新をなしたげたのも、青年の力が中心になったからなんです。

そういう場合、誰かがやってくれないだろうかというような他力本願では絶対にダメでしょうね。それはあなた自身の手でやりとげなくてはダメなんです。そういう意気込みがなくて、神戸の文化がどうか、神戸の将来性がどうか論じてみても、しょせんナンセンスですよ。

まあ、いろいろ言ってみただけど、神戸を十分知らない人間の発言だから、偉そうなことをいっていると思われる方もあるでしょうが、意のあるところはくみとっていただけるかと思っています。」

(文責編集部)

×

×

×

×

×

×

経済ポケット ジャーナル

★ソ連に経済使節団 派遣

中ソ論争の激化、発展から、ソ連もついに利潤概念を取り入れ、最近では共産主義国ではありえないとされていた失業問題まで話題になっているが、日本の外務省、財界もついに正式の訪ソ経済使節団を八月二十四日から九月十五日までソ連に派遣した。団長は財界の主流である経団連副会長の植村甲午郎氏で、団員は石田トヨタ自動車会長、駒井日立製作所社長、木下本州製紙社長ら十三人で、砂野川崎重工社長も植村団長の要請で特に参加した。

川重は、これまで共産圏との取引引きはまったくなかったが、砂野社長との訪問により、今後川重がどう進むか注目される。

★神戸製鋼

中国と輸出契約

神戸製鋼は、八月上旬、中国技術振興公司との間で総額十七億五千万円にのぼる特殊鋼、線材、圧延設備の輸出契約を結んだ。こ



れは同社が開発した線材ミルで、ノウ・ハウ（技術情報）込みの契約となっており、友好貿易による全額現金決済。着土は来年夏で、日本から中共に輸出する製鉄関係としては、初のケースである。ニチボクのビニロンプラントや日立造船の貨物船など延べ払い輸出が、吉田書簡を理由とする輸銀資金の不適用によって中共側から破棄されたが、こんどのケースは友好貿易ベースによるもの。同社はこれまで対ソ輸出で業界の先端を走っているが、こんどの場合も共産圏に対する積極的な姿勢が成功したものとみられる。

★阪東調帯

新田ベルトと業務提携

阪東調帯ゴムは大阪の新田ベルトと業務提携することになり、榎並社長と御手洗社長の間で正式調印が八月九日行なわれた。これは両社の代表的な製品を相互販売し、単種多量生産し、相互利益向上を図るのがねらい。いまゴム工業界では

業務提携によってコストダウンし利益確保を図ろうとしているが、榎並社長も合理化推進のため新田ベルトとの業務提携に踏み切ったものである。

★港湾管理権問題で 市長カンカン

神戸港は日本の二大貿易港として年々、貨物取り扱量が急増し、それに伴った港湾施設の整備が強く要請されている。ところが築港費用はほとんどが地元神戸市の負担で、市民の負担も大きい。原口市長は「港は国全体で利用するものであり、貿易をもっと伸ばそうとするなら、国が大きな資金を港湾に投入すべきだ」と主張、運輸省も四十一年度から外国貿易埠頭事業団をつくって国の金を投入しようとしている。これは、神戸、横浜、名古屋の三大港を対象にしたものだが、市が持っている管理権を国が奪う考えがあったた

め、三市の首脳もカンカン。原口市長は「市の管理権にふれるのはケシカラ。政府は道路、河川にカネは投じて港をお粗末に扱いすぎている。代議士も票にならない港にはカネを向けない全国の港湾都市を集めて、全国港湾政治連盟をつくる」と意気まいている。

★池田前首相死去

高度経済成長で世界的な評価を受けていた池田勇人前首相が八月十三日に、東大付属病院でガンのため死亡した。六十五才。「貧乏人は麦を食え」などいくつかの放言、失言もしたが、根は人情家で、神戸には、特に河野さんのように関係はなかったが、ベトナム戦争の激化、経済危機の深刻化、日韓新時代の開幕など内外の重要問題が山積しているだけに、もう少し長生きしてもらいたかった政治家である。

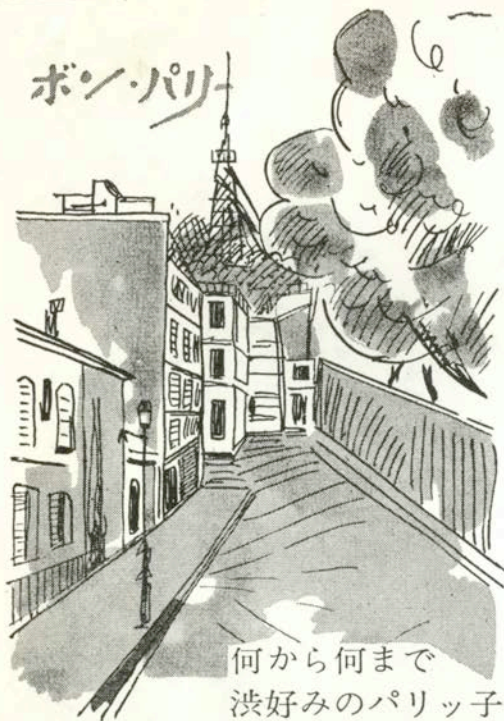
KOBEオフィスレディ



岡サチコ（23才）
毎日新聞神戸支局勤務

男っ気の多い支局の中で優しい岡さんの笑顔に出逢うとふんいきがなごやかになる。市立西宮高校出身の岡さんは読書の好きな清楚なお嬢さん。「4月からこの職場で働いていますけど皆さん親切で……」と楽しそうだ。

ボン・パリ



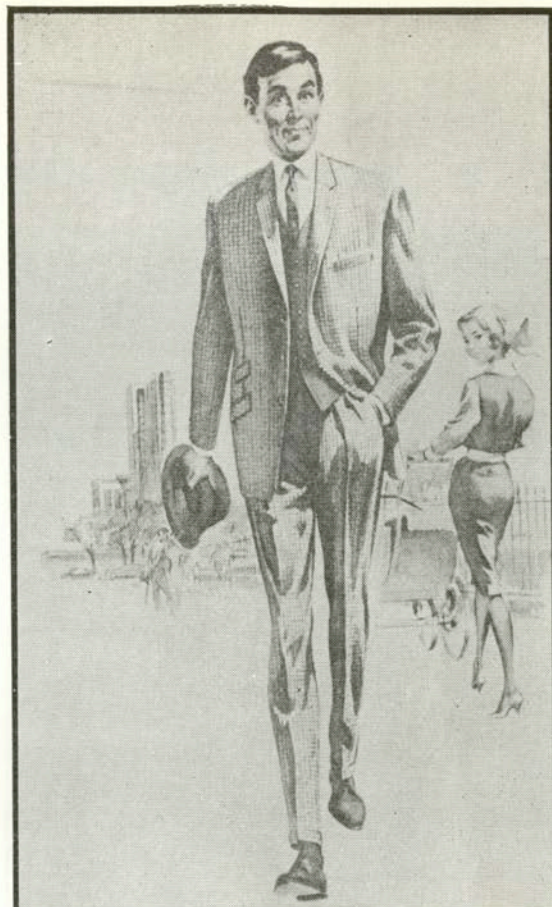
何から何まで
渋好みのパリッ子

ボン・パリは洋菓子の
本場フランスの味です
ブドーと洋酒を上品に、
ミックスした風味あるお
菓子です



アルモンド

本店 神戸市生田区元町通2の43
直売所 神戸大丸・新聞会館秀品店
本店TEL ㉟2203



高級紳士服

山名洋服店

神戸三宮生田筋 ㉟5797



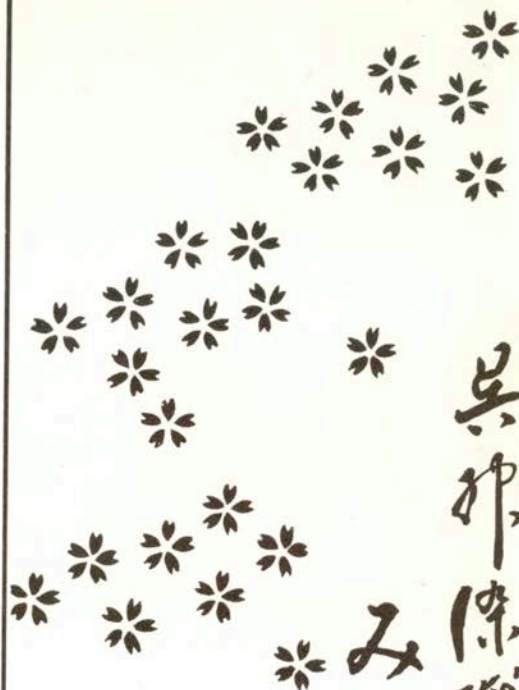
美しい



正確なメガネ

服部メガネ店

大丸前 TEL (33) 1123



呉井陳蔵

みよーや

電話神戸③三三八八〜九番
大阪店阪神百貨店三階
電話大阪⑧五五四八番
姫路店やまとやしき百貨店三階
電話姫路②三二二一番
衣裳部三宮町三丁目柳筋
電話③五一六五番

神戸市立図書館

松原新一 撮影／緒方しげを

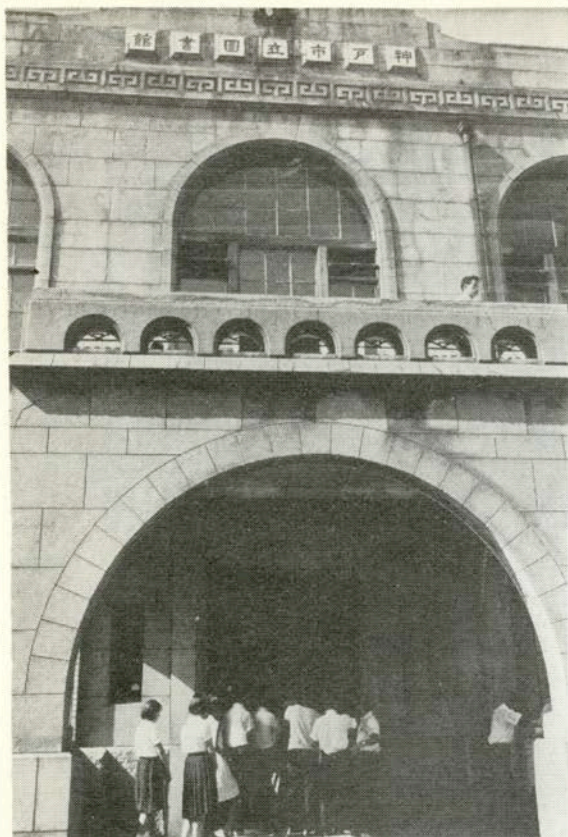
夏休みが終りに近づく。すると、図書館が繁昌する。宿題に追われた中学生や高校生が、勉強の場を求めて、どつと図書館に押しかけるからである。8月いっぱい入口に「男子満員」「女子満員」のたれふだがはずされることはない。昼頃に出かけていったのでは、とても席がとれない。入りそこねた生徒たちが、席のあくのを待って入口周辺に長い列をつくっている。炎天下にこ苦労さ

んといいたい話だが、みんな辛抱よく並んでいる。もう半時間ちかくも待ちつづけた、というある女子高校生から聞いた話をひとつ――。

「いいかげんウンザリするけど、折角来たんだから、なにがなんでも待つつもり。家にいると、ついダラダラするし、宿題はいつぱいたまっているし、この辺で背水の陣をしかないと、学校が始まってから大変ですからね。でも、夏休みの宿題

っておかしいと思うね。暑くて勉強できないから、学校がお休みになるんでしょ。それなのに宿題を出されたんじゃ、なんのための休みか分らないでしょ。まア、先生方はゆっくりお休みがとれていいかもしれないけど。」

テストでしごかれ、宿題でしごかれる現代高校生、の嘆きを代弁しているのかもしれない。横からひとりの男子高校生が口をはさんだ。



・神戸市立図書館の入口。満員で入館できない人が根気強く順番を待っている。

「実さい頭にくるよ。だいたい日本は労働者を優遇しすぎてるとちがうやろか。労働基準法もあるし、労働組合もあるし。僕らにはそんなものはあらへんからね。高校生勉強基準法でもつくってほしいね。それで、高校生の勉強時間を、学校と家庭と合わせて8時間に決めてしまふんや。そしたら夜中の2時や3時まで勉強せんでもすむわけやろ。深夜勉強は法律違反になるわけやな。それから夏休みは、いっさい宿題を出してはならないという規則もつくる。そしたら、図書館かて、こんなに満員にならんですむはずやけどな」

何年生かときくと、「三年生」と答えた。夏休みをいかに有効に利用するかによって来春の大学入試の合否が決まる。先生や両親にいつもそうおどかされているので図書館へくるのは、まあ息抜きのためですとつけ加えた。

◇ ◇ ◇

わが国に図書館令の制定公布されたのは、明治32年11月のことである。京都に府立図書館の開館されたのがその一年後だった。

明治35年、神戸市に桃木書院という私立図書館が開設されたが、これが神戸市立図書館の前身ともいえるべきもので、この書院の蔵書が、後に市立図書館蔵書の母体になった。

神戸市会が図書館設立を決定したのが明治44年3月。同年4月には、神戸市立図書館が正式に設立された。当時の所在地は相生町だった。現在の大倉山に図書館が新しく建設されたのが、大正10年10月。以後、こんなにちに至るまで神戸市民のための公共図書館として、長く市民に親しまれてきたわけである。

ごく簡単に、現在の市立図書館の内容を紹介しておきたい。

図書の閲覧時間は午前8時30分から午後9時まで。毎週月曜日と開館記念日の11月20日・館内整理日である毎月20日、毎年4月のばく書期は休館日になっている。

書庫の蔵書は約21万冊。利用者が自分で直接本をとつ

て選ぶことのできる公開図書室には、一般の利用率の高い図書が約1万冊ほど集められている新着図書、雑誌、新刊の小説をはじめ、中学・高校生向きの参考書などが、数多く集められており、全入館者のうち8割までがこの公開図書室を利用しているという。

収容人員は、階下閲覧室の成人席が60名。階上大閲覧室が42名。他に50名を収容できる児童室がある。

図書館の主要任務が図書の貸出であることは、いうまでもないが、いまひとつ、相談事務を図書館の重要な仕事として数えておかななくてはなるまい。ここで「相談事務」というのは、「図書館によせられた質問、すなわち市民の日常生活・実業実務・調査研究等において生ずる問題について、図書館の資料と機能を活用して、これに応えること、および質問の予想される主題に関し、必要な資料を整備・作成すること」である。（神戸市立図書館相談事務規程）つまり、ひと口に言えば、市民のための百科辞典として、日常生活に結びついた疑問に答えようというわけだ。

もともと公共図書館には、自然発生的に相談係的な仕事があったといえるが、それが専門的なシステムとして採用されるようになったのは最近のことである。神戸の場合は昭和26年から制度化されているが、全国の他都市の図書館にくらべて一番早かったといわれている。

相談室の実さいの模様を紹介しよう。

70歳くらいの老人が、ひょっこり訪ねてきた。「ちょっとお願いがありまして」と、その老人が持ちこんだ相談ごととは次のようなことだった。

ある日、家の蔵を整理していたら、いつの時代もののか分らぬが、数枚の古銭が出てきた。いったい、どれだけの値うちのあるものか、家じゅうで話し合ってみたが見当がつくはずもない。図書館の相談室で鑑定をお願いしてみようということになった。さて、これらの古銭は永く保存する価値のあるものかどうか、また何時代のものであるか、ご教示をお願いしたい。ざっと、そういう

用件だった。

だが、残念ながら、古銭・古文書・骨とう品などの鑑定は、お断り申し上げるというのが相談室の建て前である。ただ、それについては、コレコレシカジカの資料があるという程度のことでは教えることができる。

「図書館の人なら、なんでも知ってはると思つてましたんやけどな。そうですか、分りませんか」残念そうに言い残して、老人は引きあげていった。

よろず相談ごと受けたまわり所みたいにいるわいらしく、珍問、難問がひっきりなしに持ちこまれる。ほとんどが電話の質問だ。いくつかの実例をあげておく。

「ムカデの足は何本あるか」

「神戸で自動車を貸してくれる所を教えてください」

「日本婦人のうち左ききの人は何%くらいか」

「13年前の千円札の値うちを教えてください」

「これから友人の結婚式に出かけるのだが、どんな挨拶をしたらよいものか」

「いか、たこ、なまこの栄養価はどれくらいか」



・階上大閲覧室は、静かな勉強場所を求める中学高校生たちでいっぱい。

ありとあらゆる質問が飛び出して来る。電話や文書をつうじての質問が一日に30件ちかくあるという。それについて、遅くとも10分以内には一応の答えを出さなくてはならない。人名カード、時事用語その他の資料が、だから整然とととのえられている。

といって、解答を与えてはならないという場合だってある。古文書などの鑑定問題がそうだし、良書の推せんもダメ（解答者個人の主観はいるおそれがあるから）商店・会社の信用調査、身上相談、法律相談など、いずれもダメである。だが、なかには、電話でめんめんと結婚問題の相談をもちかけたり、くどくどと自分の体の異状を訴え、治療方法をたずねたりする人もあるという。ある相談室の職員から聞いた話をひとつ。

「まア、市民の日常生活に関係した問題については、一応の解答が出せるという態勢にはなっているんですが、なんでもかんでも答えるというわけにはいきません。宿題などもお断りしているのです。父親らしい人が、数学の問題を読みあげたりして、解答方法を教えて



・中庭の緑蔭でいこう人。読書の疲れを、ひとときここでいやす。

くれなんていつてこられるんですが、そういうのはどうも困りますね。長年、この仕事をやってきていますから、だいたいこれは宿題だな、ということとは判断がつきますね。

これは、だいたい前のことだけど、ふらりと中学生がはいってきましてね。青白い顔して、催眠薬の致死量を教えてくれというんですよ。その時、直観的にどうもおかしいぞと思ったんです。それで、ちょっと調べるのに時間がかるからといって、隣の出納室で待ってもらいましてね。質問用紙に名前と住所が記入してあったので、大急ぎで電話帳を調べたら、うまくみつかりました。実はお宅のお子さんが、こうこう、こういうことで図書館に来ておられますが、とお電話したら、お母さんがびっくりして、あわてて引きとりにこられた。近頃、様子がおかしいので、心配していましたということでした。」

◆ ◆ ◆

不景気になると、図書館が繁昌する。これはウソみたいな本当の話だ。図書館のなかにも、世間の動きがはつきりと反映されている。ある職員は次のように。

「不景気と図書館の関係なんていうと大げさですけれどもね、まあ、それらしい感じのする時もありますね。開館と同時にドヤドヤと十人くらいがはいってくる。いわゆる日雇労働者たちですね。不況期にはよくそういう光景にぶつかりますよ。『先陣争い一番乗り』なんて叫びながら飛びこんでくる人がある。失業者とか、仕事にあぶれた労働者たちが、どこかといって行く当てもないので、仕方なしに図書館へやってくるんでしょう。なにし



・ユーモラスな「職員」の告示板

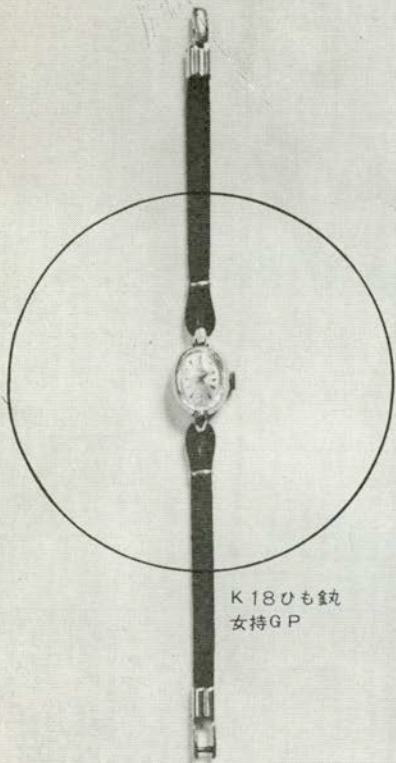
ろここは入館料タダですからね。朝から晩までここにいて、小説読んだり、物思いにふけったりしているわけですね。うまくいけば、喫煙所でタバコのすいぐらにありつけるかもしれない、そんな悲愴を願って図書館通いをしている人もいます。

いつだったか、アンコふうの男の人が代数学の本を借り出して、『オレは京都大学を卒業したんだぞ』なんて嬉しそうに話していたこともありすね。労働者のための厚生施設や社会施設はいろいろあるはずなんですが、神戸の労働者というのは、やはりどこかコスモポリタンの性格があるのでしょね、お役所的な雰囲気のところへは行きたがらないらしい。その点、この図書館はいずれに気兼ねもいらない、気軽な利用できるといふ心安さがあるのかもしれない。」

もちろん、市立図書館には全然悩みがないわけではない。公共図書館とはいいながら、図書館が今や高校生や中学生のための席貸しの場所みたくになっているのも、本来の目的からいえば少しおかしいことといえそう。本を借りて読むというより、ただの勉強室になってしまった感がある。家庭にちゃんとした勉強部屋がないという、わが国の家庭環境にも問題はあろうが、席借り生徒が閲覧室を占拠して、一般の読書人が締め出されるというのでは困るのである。また、家庭の主婦の図書館利用率の少ないのも気にかかる。女性は家庭にいったとたんに、図書館よ、さようならで終ってしまふ傾向にあるらしい。また、各地を巡回する自動車文庫もほしい。暖房・冷房の設備も充実させてほしい。そういう内外のさまざまな要望がどう生かされてゆくか。図書館の本来の目的について、当局も神戸市民の一人一人も、ともに考えてみるべきではなからうか。

GIRARD-PERREGAUX

Fine watches since 1791



K 18 ひとめ
女持 GP

特約店 **美田時計店**

神戸・元町3丁目
TEL 33-1798・8798



夢みる
佳き日の

幸せをつつむ
あなたのベール

婦人帽子
マキシン

神戸・トアロード
TEL 神戸33-6711-3

東京・銀座3-2
TEL 東京535-5041



あなたとパリを結ぶ..

フランスパン ドンQ



本店 三宮センター街 TEL.05481~4
 芦屋店 TEL.25137
 サンドウィッチバーラー TEL.05485
 フランスパンコーナー TEL.054985
 須磨寺店 TEL.718752
 垂水店 TEL.773603

*さんちか・レデスタウン
 10月1日オープン!
プリンス

コスチュームアクセサリーの店
芸 げい 夢
 神戸店 / トアロード ☎ 8643 2293
 大阪店 / 心斎橋ロビー (211) 5153 1044
 心斎橋名店街(小丸ビル) 211 8503